

リハビリテーション科

Department of Rehabilitation Medicine

リハビリテーション科長

松田 秀一



疾病からの社会復帰 在宅復帰に取り組む専門家集団

2012年3月1日に松田秀一教授が診療科長に就任し、ほぼ全科からのリハビリテーション依頼に対応している。当科は、疾病、長期間の医学加療、手術によって患者さんが受けたdisabilityとimpairmentを評価し、その社会的handy capを少なくするために、各患者さんが必要とするリハビリテーション療法を処方し、それが適切に遂行されているかをチェックし評価している。

代表的診療対象疾患

運動器、中枢神経、呼吸器、循環器疾患を中心に行っている。

診療体制と治療実績

診療内容

現在、診療科長以外に3名のリハビリテーション科医師と、医学部人間健康学科および幾つかの診療科からの医師の応援を得て診療を行っている。診療内容は以下の通りである。

①リハビリテーション処方のチェック

各患者さんの主治医より提出されたリハビリテーション依頼書をチェックし、その患者さんに対し適切なリハビリテーション療法を処方する。

②外来リハビリテーション患者の診察

外来リハビリテーション患者の訓練施行前診察を行い、患者さんの訓練前の体調をチェックする。

③総合リハビリテーション実施計画書の作成

定期的に我々の行ったリハビリテーション療法の効果判定を行っている。

④リハビリテーションファレンスの開催

リハビリテーション施行症例のうち、治療に問題点のある症例に対し、医師、療法士全員で症例検討を行い、その問題点を洗い出し、その解決法を模索している。

⑤療法士との抄読会

文献を輪読し、各専門分野の最新の知識の収集に努めている。



高度医療の取り組み

多様な研究を展開

①歩行障害のある患者に対し、歩行解析を行い、リハビリ訓練に活用している。

②末梢神経手術後患者の脳内活動部位を、近赤外線Spectroscopyを用いて測定し、末梢神経回復におけるリハビリテーション介入効果と脳可塑性との関連を研究している。

③肺移植患者で術前後の身体機能測定を行い、呼吸器リハビリテーションの効能を検証している。

④肩関節疾患患者の術後の筋力回復を、筋電図と超音波で解析している。